

第3章 読書活動の推進のための方策

1 芦別市の子どもを取り巻く読書の現状

少子化、核家族化など社会情勢が大きく変化し、テレビやインターネット、携帯電話など多様なメディアが発達普及し、子どもたちの生活環境や生活習慣に大きな影響を及ぼしています。また、読書離れが進み、読解力の低下も指摘されています。

そこで本市の子どもの読書観や読書活動の現状を把握するため、この計画の対象者となる子どもと保護者にアンケートを実施しました。

ア 調査期間

平成27年6月16日から6月22日まで

イ 調査対象

- ・ 幼稚園児及び保育園児の保護者
- ・ 小学校3年生及び5年生並びにその保護者
- ・ 中学校2年生
- ・ 高校2年生

ウ 調査方法

各園、学校にアンケート用紙の配布及び回収を依頼

エ 回収率

(単位：枚、%)

配付先	配布枚数	回収枚数	回収率
幼稚園児・保育園児の保護者	269	161	59.9
小学校3年生	86	52	60.5
小学校3年生の保護者	83	53	63.9
小学校5年生	83	80	96.4
小学校5年生の保護者	83	54	65.1
中学校2年生	94	94	100.0
高校2年生	127	124	97.6

オ 現状と課題

アンケートの結果、1か月全く本を読まない子どもがいる一方、多くの本を読んでいる子どもがいることもわかりました。読書離れが最も多いと思われる中学生や高校生でも、0冊と答えた人数が少ないのは、学校で取り組んでいる「朝の読書運動」の成果と思われます。

しかしながら、広大な面積を有する本市において、市内に書店が1店舗、図書館が1館という現状では、子どもたちの求めている本を、すぐに手に入れることができる環境にはありません。

また、図書館では、子ども向け行事の参加者の減少や、図書の貸出数の減少など、利用者が減少しています。距離的な問題もあり、親の協力なしでは、子どもが図書館を利用できないなどの課題もあります。

計画の実施にあたり、「乳幼児期」、「小学生期」、「中学生期」、「高校生期」の4つに分けて課題を整理し、読書活動を推進します。

2 各期の方策

(1) 乳幼児期（0歳～6歳）「本に出会う」

乳幼児期の子どもは、親や家族とのふれあいの中で成長していきます。この時期は心と体の成長が早く、語りかけや遊びの中で言葉を覚え、コミュニケーションがとれるようになります。

【特徴】

乳児期

心身の成長の上で大切な時期です。親をはじめ、まわりの大人たちが愛情をもって語りかけることが、子どもの情緒を安定させ絆を深めます。ふれあいの中で一緒に本に親しんだり、読み聞かせ^{※1}を通して、心楽しい体験を日々重ねていくことで本に親しむきっかけができます。

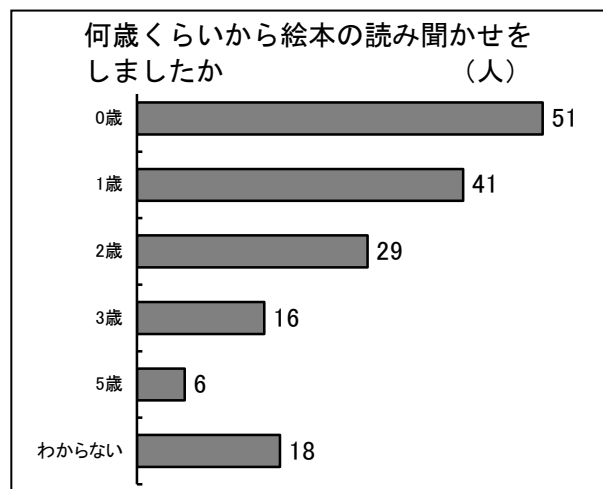
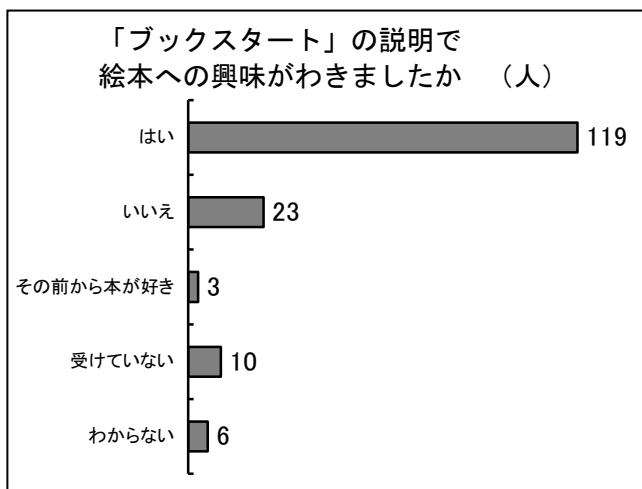
幼児期

言葉が豊かになり、絵本の世界を想像して楽しむことができるようになってきます。好きな本を何回も読んでもらうなど、子どもの個性も出てきます。

また、家庭から保育園や幼稚園へと一日を過ごす生活の場が変化し、園での遊びや体験、また集団での読み聞かせなどにより、文字や言葉に興味を持つようになり、自らの力で本を読むことへとつながっていく時期です。

【方針】

- ブックスタート^{※2}等を通じ、絵本の楽しさと、読み聞かせの大切さを伝えます。
- 絵本コーナーを充実させ、年齢に合わせた絵本を選びやすい環境を作ります。
- おすすめ本リストや企画展示を通し、いろいろな絵本の紹介をします。
- 本を活用した体験や遊びを取り入れた事業を実施し、図書館の利用を促します。
- 図書館だより、広報、ホームページ等を活用し、図書館の行事や本の情報を提供します。
- 乳幼児が利用しやすい施設設備を整えます。

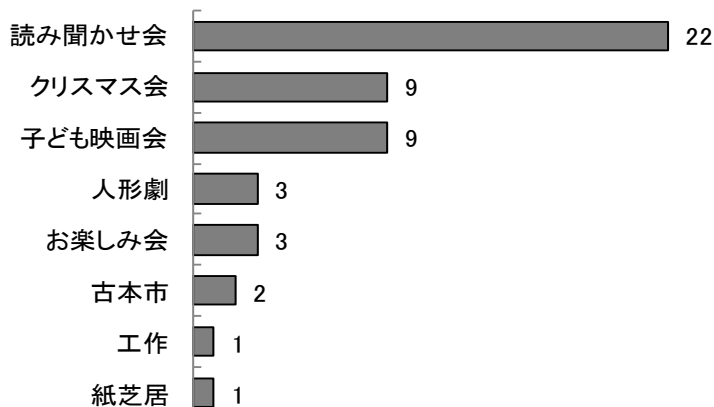


※1 読み聞かせ：子どもたちに本や絵本などを読んで聞かせること。

※2 ブックスタート：生まれてきた赤ちゃんに絵本を贈り、その絵本を通じて、親子の心がふれあうひとときを持つきっかけをつくる取組

お子さんと一緒に市立図書館の行事に参加したことがありますか（人）

ある	50人
ない	111人



【具体的な施策】

実施主体	取組・実施事業【連携機関】
(ア) 家庭	家読 ^{※3} の実施
	読み聞かせや語りかけ
	図書館の利用
(イ) 幼稚園 保育園	園児・通園児への読み聞かせ
	貸出文庫 ^{※4} の利用【図書館】
	読書環境の整備
	出前講座（読み聞かせなど）の活用【図書館】
園だよりなどを利用した読書案内	
(ウ) 関係機関	貸出文庫の利用【児童課】
(エ) 図書館	「えほんおはなし会」、「絵本読み聞かせ会」、「こども映画会」の実施
	ブックスタート【健康推進課】
	「びよびよ広場」などでの絵本紹介や出前講座の実施【子どもセンター】
	子育てサークルなどでの読み聞かせ【子どもセンター】
	移動図書館車の運行
	児童書の充実
	大型絵本の充実
	企画展示の実施
	子ども向け行事の実施
	読み聞かせボランティアの育成
	読書手帳 ^{※5} などを利用した読書意欲の向上と読書記録のすすめ
「図書館だより」、「広報あしべつ」、「ホームページ」等による広報活動	

※3 家読（うちどく）：家族で本を読んでコミュニケーションを取り、家族の絆を深めることを目的とした読書活動

※4 貸出文庫：学校や施設などに、定期的に複数冊の本を貸出する事業

※5 読書手帳：読んだ本の記録を残す手帳。貸出中の本をシールに印字して、貼ることができる。平成27年9月に導入

(2) 小学生期(6歳～12歳)「本に親しむ」

小学生になると、文字が読めるようになり、読書の世界が一気に広がります。色々な分野に興味を持ち、自ら本を選ぶようになります。環境や心の成長の度合いで、読書力に大きな違いが出る時期でもあります。いつでも本を読める環境があり、読みたい本を手軽に手に入れられるようになることで本に親しむことができ、読書の楽しみを知り、読書習慣を身につけることができるようになります。そのためにも、子どもたちが多くの時間を過ごす学校での読書環境が重要になってきます。

【特徴】

低学年

字が読めるようになって、文字を追うのが精一杯で、内容を理解して本を楽しむことはできません。読み聞かせをしてあげること、本の世界を十分に理解し、楽しさを味わうことができます。読み聞かせをすることにより、読書の世界が広がるとともに、読み聞かせる親も同じ本を楽しむことができ、家読にもつながります。

中学年

興味が多様化してきて、個性が強くなってきます。物語だけではなく、科学や自然、知識、伝記などを好んで読むようになってきます。子どもたち一人ひとりの興味や関心に合った本を薦めることによって、本好きになり、読書量が増えていきます。

高学年

生活体験が豊かになり、幅広い分野の中から自分の目的に合った本を選択できるようになる時期です。読書離れの始まる時期でもあるため、子どもたちが主体的に本を手に取りたくくなるような働きかけが必要となります。

【方針】

- 「絵本読み聞かせ会」、「こども映画会」などの行事を行い、本に触れる機会を増やします。
- 移動図書館車、学級文庫^{※6}などにより、子どもたちの身近に本を届けます。
- おすすめ本リストや企画展示を通し、いろいろな本の紹介をします。
- ブックトーク^{※7}や調べ学習^{※8}、図書館見学など、図書館の活用を学校に働きかけます。
- 本を活用した行事や遊びを取り入れた事業を実施し、図書館の利用を促します。
- 図書館だより、広報、ホームページ等を活用し、図書館の行事や本の情報を提供します。

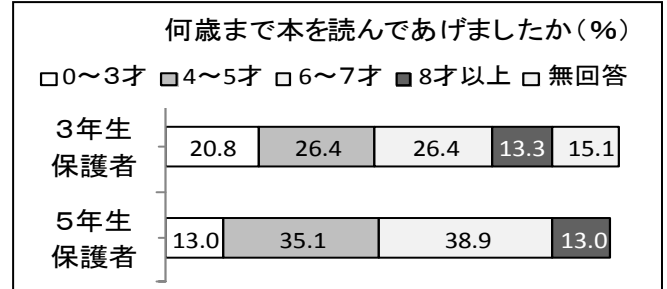
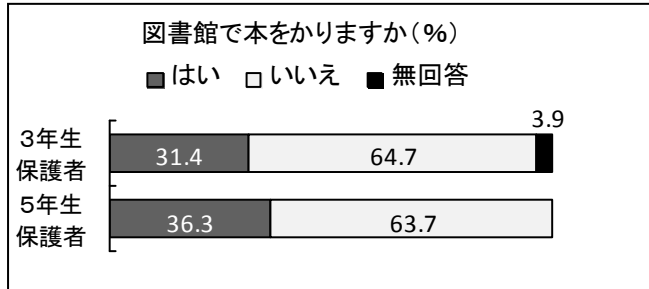
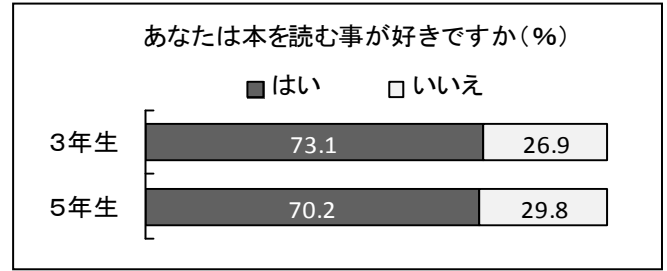
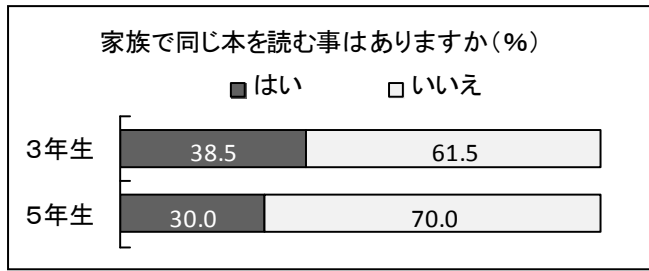
※6 学級文庫：クラス単位で、複数冊の本を貸出する事業

※7 ブックトーク：テーマに合わせ、何冊かの本を複数の聞き手に紹介すること。その目的は、「本の面白さを伝える」、「その本を読みたいという気持ちを引き出す」こと。

※8 調べ学習：子どもが自分自身の力で課題を設定し計画を立てて解決する、自ら学び自ら考える自主的、自発的な学習方法

※9 朝の読書：学校で毎朝始業前に児童生徒、教職員が自分で選んだ読みたい本を読む運動。

1998年千葉県の高教諭 林 公(はやし ひろし)氏が提唱して実践したのが始まり



【具体的な施策】

実施主体	取組・実施事業【連携機関】
(ア) 家庭	家読の実施
	読み聞かせや語りかけ
	図書館の利用
(イ) 小学校	朝の読書 ^{※9} や休み時間を使った読書タイムの実施
	読み聞かせの実施
	ブックトークの実施【図書館】
	調べ学習での図書の活用
	貸出文庫や学級文庫の利用【図書館】
	生活科や総合的な学習の時間等での図書館の利用
	移動図書館車の利用
学校図書室の整備と図書の充実	
(ウ) 関係機関	貸出文庫の利用【児童課】
	読み聞かせの実施【児童課】
	通学合宿での図書利用【生涯学習課】
(エ) 図書館	「絵本読み聞かせ会」、「こども映画会」の実施
	「一日司書体験」の実施
	移動図書館車の運行
	貸出文庫や学級文庫の実施
	児童書の充実
	「利用者カード」の配布（1年生）
	企画展示の実施
	図書館活用方法と図書館事業の紹介
	子ども向け行事の実施
	読み聞かせボランティアの育成
	読書手帳などを利用した読書意欲の向上と読書記録のすすめ
「図書館だより」、「広報あしべつ」、「ホームページ」等による広報活動	

(3) 中学生期（12歳～15歳）「本から学ぶ」

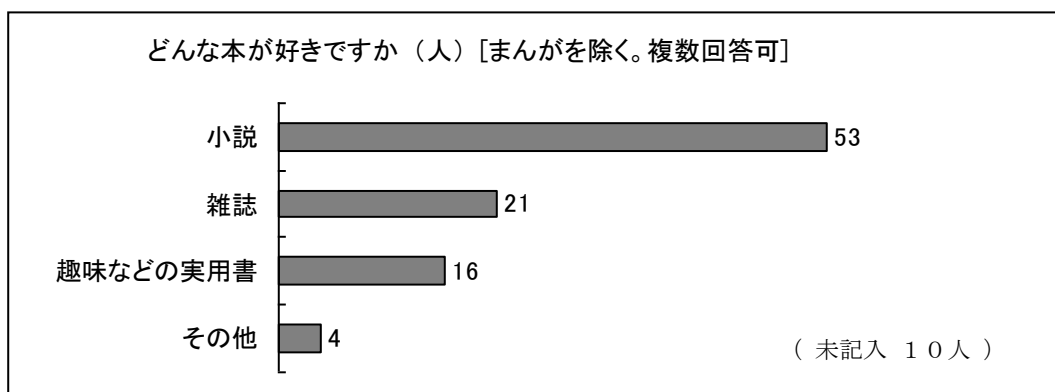
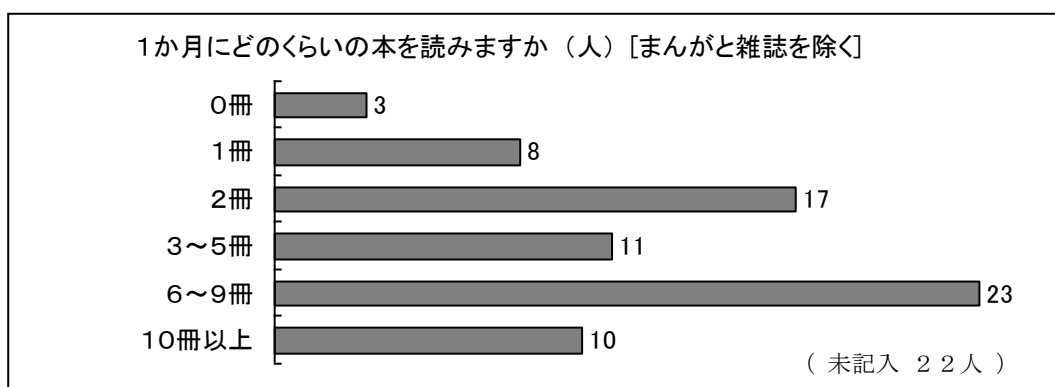
勉強や部活動等への参加により自由な時間が減少してきます。その結果、読書にかける時間も少なくなり、読書量が減少する傾向にあります。また、反抗期を迎え、親子のコミュニケーションが不足しがちな時期でもあります。しかし、この時期は、様々な事に興味や関心を持ち、色々な事を吸収する柔軟さがあります。良い本に出会い、読書が習慣になると、大きく成長することができます。そのために、本を読む時間を増やし、さらに興味のある本が身近にある環境づくりが重要となります。

【特徴】

中学生になると、本を読む子と読まない子に分かれ、本離れが始まります。一方でテレビや映画、ネットなど話題になったものに関心を示す傾向が見られ、流行に敏感になります。子どもたちの関心に合わせた読書環境を整えることが大切です。

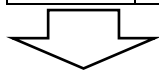
【方針】

- 企画展示やおすすめ本の紹介などを行い、様々な本との出会いを提供します。
- ヤングアダルト※¹⁰世代の興味・関心に合わせた本の充実と情報発信を行います。
- 移動図書館車、学級文庫などにより、子どもたちの身近に本を届けます。
- 視聴覚施設や雑誌コーナーなどの施設を紹介し、図書館の利用を促します。
- 学校との連携を深め、図書館の活用を促します。
- 調べ学習や総合的な学習の時間のテーマに合わせた資料の提供について紹介します。
- 図書館だより、広報、ホームページ等を活用し、図書館の行事や本の情報を提供します。
- 利用しやすい施設の環境を整え、滞在型施設を目指します。



読みたい本がある時はどのようにしていますか（人）【多い順に2つ】

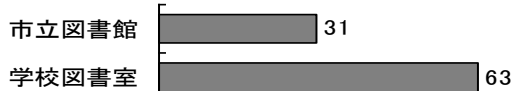
買う	インターネット	市立図書館	ブック君号 (移動図書館車)	学校の図書室	友だちから借りる	親から借りる	無回答
56	8	12	0	14	16	1	21



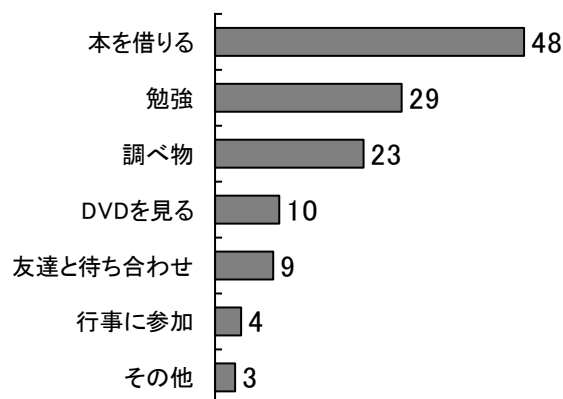
1年間の購入冊数はどのくらいですか（人）

1冊	2冊	3冊	4冊	5冊	6～10冊	11～20冊	21冊以上	無回答
3	3	5	3	10	8	9	8	7

市立図書館と学校図書室ではどちらを利用することが多いですか（人）



市立図書館に行くのはどんな時ですか（人）[複数回答可]



【具体的な施策】

実施主体	取組・実施事業【連携機関】
(ア) 家庭	家読の実施
	図書館の利用
(イ) 中学校	朝の読書や休み時間を使った読書タイムの実施
	ブックトークの実施【図書館】
	貸出文庫や学級文庫の利用【図書館】
	調べ学習や総合的な学習の時間での図書館の利用
	移動図書館車の利用
	学校図書室の整備と図書の実施
(ウ) 図書館	貸出文庫や学級文庫の実施
	図書館活用方法と図書館事業の紹介
	職場体験の受け入れ
	ヤングアダルト向け図書の実施
	企画展示や事業の実施
	読書手帳などを利用した読書意欲の向上と読書記録のすすめ
	「図書館だより」、「広報あしべつ」、「ホームページ」等による広報活動

※10 ヤングアダルト：発達心理学で「成人期前期」のことを指し、「公共図書館におけるヤングアダルト（青少年）サービス実態報告」（日本図書館協会・1992）では、13歳から18歳（中学生から高校生の学齢）の利用者と規定されている。

(4) 高校生期（15歳～18歳）「本と生きる」

勉強や部活動がますます忙しくなり、自由な時間が少なくなります。本離れが進み不読率※11が上がります。しかし、視野が広がり、興味や関心が多岐にわたることから、この時期に多くの本を読むことは、人間としての在り方や生き方を考えることにつながり、自らの生き方について考え、主体的な進路の選択と決定に影響を与えるとともに、生涯を通じて読書を楽しみ、学び続けていく上での大きな力になります。

【特徴】

高校生になると、本を読むことの楽しさや重要性を知っていますが、いろいろな活動の時間が増え、読書時間の確保が難しいのが現状です。求めている本と出会うことは難しく、手に入れることができない状況が続くと、本を読まない人が増えてきます。

【方針】

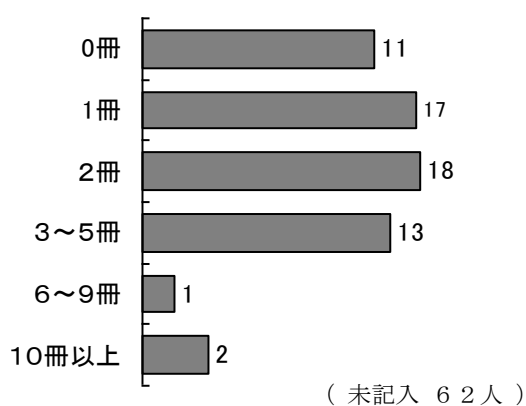
- 企画展示やおすすめ本の紹介などを行い、さまざまな本との出会いを提供します。
- ヤングアダルト世代の興味・関心を考慮した本の充実と情報発信を行います。
- 視聴覚施設や雑誌コーナーなどの施設を紹介し、図書館の利用を促します。
- 学校との連携を深め、図書館の活用を促します。
- 調べ学習や総合的な学習の時間のテーマに合わせた資料の提供を紹介します。
- 図書館だより、広報、ホームページ等を活用し、図書館の行事や本の情報を提供します。
- 利用しやすい施設の環境を整え、滞在型施設を目指します。

帰宅後はどう過ごしていますか（分）

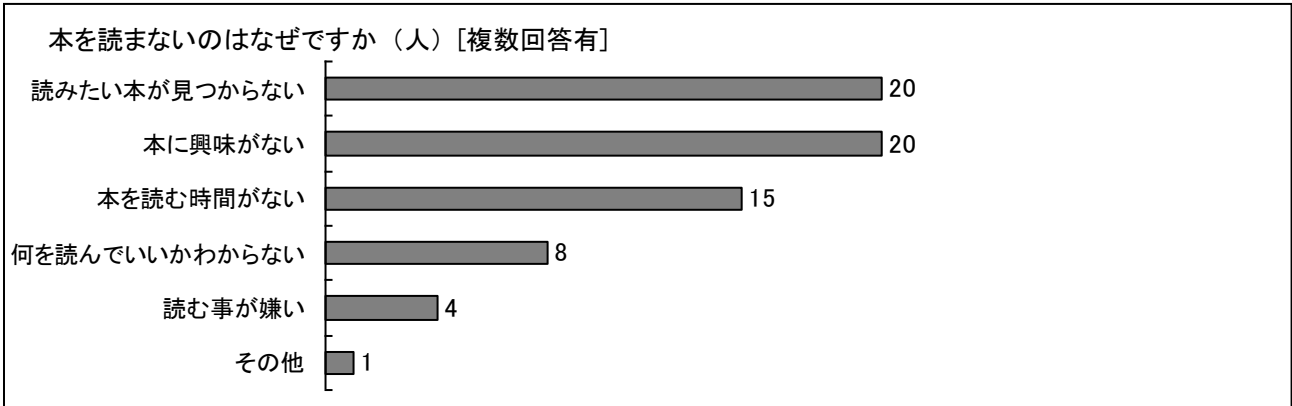
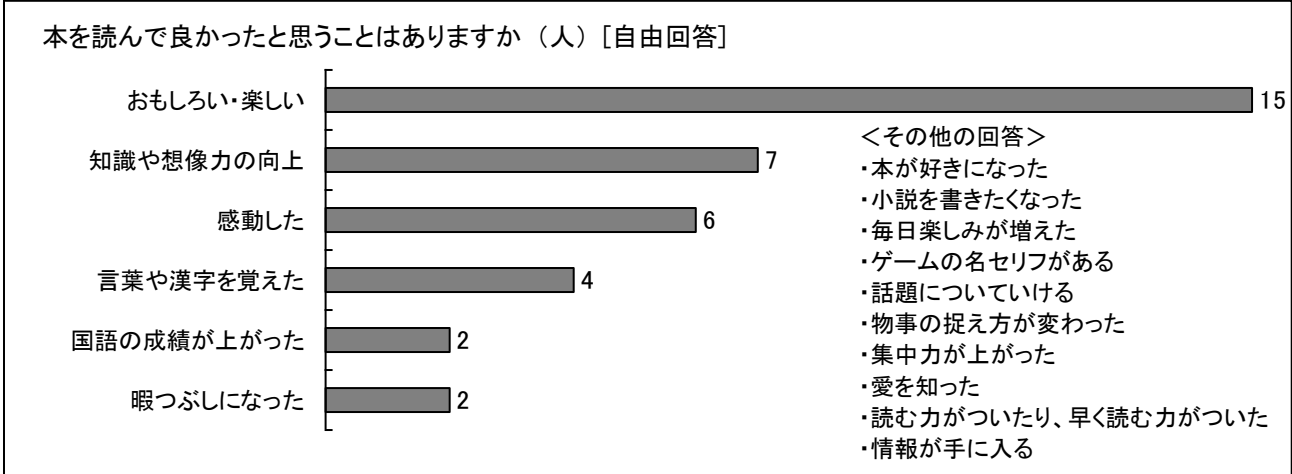
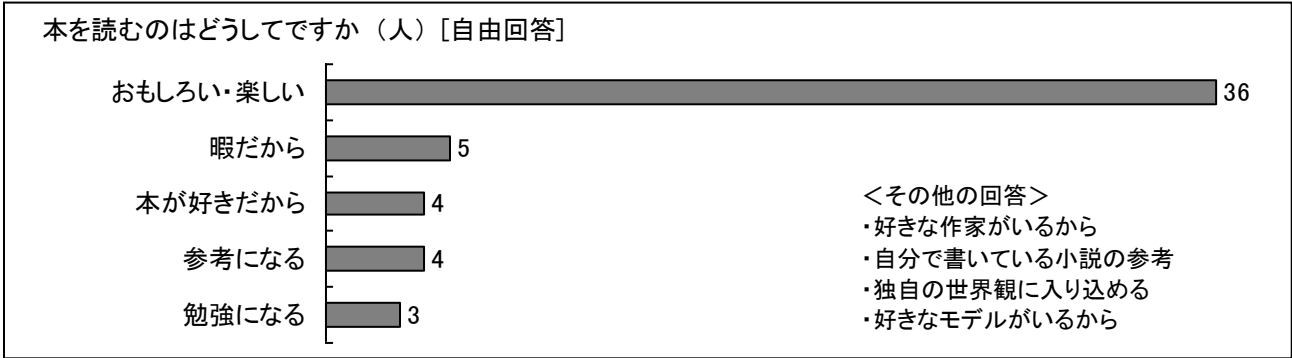
	男子 (平均)	女子 (平均)	合計 (平均)
塾・習い事	1.6	5.1	3.7
ネット・メール	54.2	94.4	73.0
ゲーム	46.7	19.0	33.7
風呂	30.3	37.8	33.8
勉強	37.5	27.2	32.7
食事	33.0	36.6	34.7
テレビ	55.5	83.3	68.5
その他(読書含む)	30.1	11.8	21.5

(アンケートの回収人数で平均値を算出)

1か月にどのくらいの本を読みますか（人）
[まんがと雑誌は除く]



※11 不読率：全国学校図書館協議会と毎日新聞社が行っている、全国の小・中・高生を対象とした「学校読書調査」の中で、調査期間の1か月間に「全く本を読まなかった」割合



【具体的施策】

実施主体	取組・実施事業【連携機関】
(ア) 家庭	家読の実施
	図書館の利用
(イ) 高校	朝の読書や休み時間を使った読書タイムの実施
	ブックトークの実施【図書館】
	貸出文庫や学級文庫の利用【図書館】
	調べ学習や総合的な学習の時間での図書館の利用
	移動図書館車の利用【図書館】
	学校図書室の整備と図書の実充
(ウ) 図書館	図書館活用方法と図書館事業の紹介
	インターンシップの受け入れ
	移動図書館車の運行
	ヤングアダルト向け図書の実充
	企画展示や事業の実施
	読書手帳などを利用した読書意欲の向上と読書記録のすすめ
	「図書館だより」、「広報あしべつ」、「ホームページ」等による広報活動